

第2次漁業センサ結果報告（海面漁業）

— 農 林 調 査 係 —

この調査は統計法による指定統計第67号として漁業センサ規則（昭和28年8月31日農林省令第42号）に基づいて昭和28年11月1日及び同29年1月1日を調査期日として実施されたもので前センサ以後のわが国漁業の実態を明かにする資料を提供し今後の水産行政の諸施策に寄与するところ大なるものと思われる。

今度の大战により多くの領土を失つたわが国が今後発展すべき産業として漁業は大いに注目されているが、従来水産業に関する基礎的な統計資料は極めて不備の状態で国や県の水産行政上大きな障害となつていたが、終戦後はじめて昭和22年に水産業基本調査という名前で簡単な全部調査が行われ、ついで昭和24年3月1日には第1回の漁業センサが実施されて、漸く水産業の基本的な事情が明かにされ諸施策に利用されて来た。以後センサは五年毎に行うことになり今回は2回目である。調査客体の規定が前回と異なるので前回との比較はせず今回の結果についてのみ記してみることにした。

1. 経営体数

本県の漁業経営体数は1,626で経営組織別にみると（表1）の通りである。個人経営体の下位階層即ち無動力、有動力船3ト未満所有、小型定置漁業経営など、いわゆる零細経営は1,243で個人経営体の83.4%総経営体の76.5%を占めており、本県の漁業経営体の多くがこの階層にあることがわかる。また経営体数の漁業種類別は同じく（表1）にみられるとおりである。

（表1） 漁業種類別経営体数

経営組織		総数	個人経営	漁業協同組合 組合自営	共同経営	会社	官学 試験	庁校 場
漁業種類	数	1,626 (100%)	1,497 (92.5%)	2 (0.0)	113 (7%)	12 (0.7)		2 (0.0)
底網	中型機船底びき網	33	31	—	I	I	—	—
びき	小型機船底びき網	59	56	I	2	—	—	—
き業	その他	12	I	—	II	—	—	—
ま	ワシあぐり巾着網	65	49	—	15	I	—	—
ま	アジ・サバ・中着網	5	3	—	2	—	—	—
き	イワシ・サバ・縫切網	—	—	—	—	—	—	—
網業	その他	5	5	—	—	—	—	—
敷	サソの他	48	42	—	—	6	—	—
網業	マサの他	—	—	—	—	—	—	—
刺	イワシの他	12	7	—	5	—	—	—
網業	サケの他	2	I	—	—	I	—	—
	その他	I	I	—	—	—	—	—
釣	カツオ一本	7	5	—	I	—	—	I
延	アジ・サバ一本	6	3	I	2	—	—	—
縄	イマダグロ一本	I	I	—	—	—	—	—
業	その他の釣、延縄	17	16	—	—	I	—	—
		914	907	—	6	—	—	I
大定	ブリ・マグロ定置網	2	—	—	—	—	—	—
置	サケ・マス定置網	—	—	—	—	2	—	—
型	その他の大型定置網	—	—	—	—	—	—	—
網業		—	—	—	—	—	—	—
小	型定置網漁業	I	I	—	—	—	—	—
地	曳船	84	22	—	62	—	—	—
曳	船	62	59	—	3	—	—	—
船	曳	—	—	—	—	—	—	—
網業		—	—	—	—	—	—	—
そ	採貝・採藻	257	255	—	2	—	—	—
の	採貝・採藻	—	—	—	—	—	—	—
漁	その他の漁業	—	—	—	—	—	—	—
他業		33	32	—	I	—	—	—

- 〔注〕 ①「個人経営」には漁船を使用しないで漁業を営むものを含まない。
 ②「表頭の共同経営」は漁業協同組合自営、生産組合を除く一切の共同経営体である。
 ③経営体が2種以上の漁業を営んだ場合には、そのうち主な漁業一つに入れられている、したがって重複はなく又漁業種類毎にはその漁業を営んだすべての経営体数ではない。
 ④生産組合は該当がない。
 ⑤漁業種類の中母船式捕鯨、近海捕鯨、トロール、以西機船底びき網、アメリカ式中着網、ニシン刺網、ニシン定置網は該当がない。

2. 漁獲高

これらの漁業経営体が1年間に漁獲した総漁獲高は1,965万円で、その内容は(表2)のとおりである。経営体数では76.5%を占める零細経営体の漁獲高は総漁獲高の49.3%で他は個人経営体の上位階と団体経営体の漁獲高である。

(表2) 漁獲高

経営組織	数量金額	海面漁業					
		総金額	総数量	魚種別数量			
				魚類	貝類	その他の水産動物	藻類
総数	千円	2,623,207.7	19,650,262	18,673,984	372,354	504,715	99,209
総数		2,095,228.7	15,921,631	15,040,737	337,072	462,315	81,457
無動力		58,325.2	447,181	112,258	224,071	43,126	67,726
1 吨未満		56,737.1	223,554	137,848	7,808	70,199	7,699
1 吨 ~ 3		64,351.5	296,125	150,429	78,293	62,789	4,614
3 ~ 5		18,113.2	112,020	91,260	9,508	11,012	240
5 ~ 10		22,353.7	141,657	137,103	594	3,292	668
10 ~ 20		23,841.9	195,555	189,917	4	5,634	—
20 ~ 30		48,894.6	403,272	369,415	—	33,857	—
30 ~ 100		631,857.8	5,253,015	5,091,506	—	161,509	—
100 ~ 200		640,903.5	5,285,141	5,229,140	—	56,001	—
200 以上		503,928.8	3,342,884	3,342,884	—	—	—
大型定置		—	—	—	—	—	—
小型定置		13,849.7	64,660	55,262	—	9,398	—
地曳		7,166.6	156,567	133,765	16,794	5,498	510
漁業協同組合 生産組合 共同経営 会社 官公庁学校試験場		513.7 — 70,869.9 440,279.5 16,310.9	1,480 — 923,865 2,711,040 92,246	1,305 — 859,747 2,679,974 92,171	— — 35,280 2 —	175 — 11,086 31,064 75	— — 17,752 — —

[注] ①海面漁業魚種別漁獲高のうち「その他の水産動物」にはイカ、タコ、エビ、カニ等が含まれる。
②漁獲高貴数は全てナマの目方で計つたものであり、貝類は殻付の数量である。

3. 漁船

過去1年間に漁業経営体を使用した漁船の総隻数は(表3)のとおりである。

(表3) 漁船

経営組織	総隻数	無動力船				有動力船	
		隻数	隻数	吨数	馬力数		
総数	2,906	1,159	937	17,926.8	48,696		
個人経営	1,917	1,028	879	15,618.6	42,560		
漁業協同組合 生産組合 共同経営 会社 官公庁、学校試験場	2 — 134 49 4	— — 152 19 —	2 — 22 30 4	14.8 — 310.6 1,734.7 248.1	50 — 765 4,706 615		

[注]事業所で過去1カ年間に漁業に使用したものうち昭和29年1月1日現在所有又は借入れている漁船を合計したものであるから重複計上はない。
漁船として登録してあつても過去1カ年間に漁業に用いなかつたもの及び遊漁船として使用したものは含まれない

4. 兼業の状態

個人経営体1,497を経営する個人経営者の世帯数は1,496世帯で、その中漁業以外の産業を営まず被備収入もない専業世帯は272世帯(18.2%)、漁業以外の産業を営むもの或は被備収入のある兼業世帯は1,224戸(81.8%)である。個人経営者世帯の内容は(表4)のとおりである。

兼業世帯1,224世帯のうち他産業を兼営するものは1,009世帯で、これを主として営む産業の種類別にみると(表5)のとおりである。また1,009世帯を上位階層と下位階層(無動力、有動力船3ト未満小型定置)に分けてみると兼業世帯の大部分が下位階層に属しているものであることがわかる。

(表4) 専業別個人経営者世帯数

専業別 経営体階層	総数	専業	兼業 総数	第一種兼業				第二種兼業				
				総数	自営兼業のみを行うもの	自営兼業と被備を行うもの	被備のみ	総数	自営兼業のみを行うもの	自営兼業と被備を行うもの	被備のみ	
総数	1,496	272	1,224	706	388	180	138	518	197	244	77	
無動力	838	97	741	317	135	95	87	424	125	223	76	
有動力	1屯未満	215	47	168	142	77	37	28	26	11	15	—
	1～3	189	37	152	115	62	35	18	37	32	5	—
	3～5	41	4	37	29	22	5	8	7	—	1	
	5～10	31	7	24	18	13	3	2	6	—	—	
	10～20	17	4	13	13	9	4	—	—	—	—	
	20～30	13	10	3	3	3	—	—	—	—	—	
	30～100	77	38	39	37	37	—	—	2	2	—	—
	100～200	39	23	16	16	15	1	—	—	—	—	—
	200以上	13	5	8	8	7	—	1	—	—	—	—
大型定置	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小型定置	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	
地 曳	22	—	22	7	7	—	—	15	14	1	—	

[注] ①専業、漁業経営(自営漁業、共同漁業)以外の産業を営まず、被備収入もないもの。
 第一種兼業 漁業以外に他の産業を営むが被備収入があるが主に漁業経営収入に依存しているもの。
 第二種兼業 " 被備収入があり漁業経営収入よりもこれらに主に依存しているもの
 ②個人経営者世帯数(1,496)が個人経営体数(1,497)より小さいのは個人経営者がその世帯と異なる市町村に漁業の現業事業所をもっている場合には、その事業所を個人経営体としては調査したが世帯調査は行わなかった。

(表5) 自営他産業種類別世帯数

産業分類 経営体階層	総数	自営兼業を行わないもの	自営事業を行うもの											
			総数	農業	林業 狩猟業	鉱業	建設業	製造業 (工業)	卸売業 小売業	金融 不動産	保険 公益事業	運輸 通信	サービス業	
総数	1,496	487	1,009	934	—	—	—	8	21	32	—	4	—	10
無動力	838	260	578	546	—	—	—	5	4	19	—	1	—	3
有動力	1屯未満	215	75	140	131	—	—	—	1	6	—	—	—	2
	1～3	189	55	134	127	—	—	2	1	—	—	1	—	2
	3～5	41	7	34	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5～10	31	9	22	17	—	—	—	1	2	—	—	—	1
	10～20	17	4	13	12	—	—	—	—	1	—	—	—	—
	20～30	13	10	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30～100	77	38	39	27	—	—	—	7	2	—	2	—	1
	100～200	39	23	16	13	—	—	—	2	1	—	—	—	—
	200以上	13	6	7	5	—	—	—	1	—	—	—	—	—
大型定置	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小型定置	1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地 曳	22	—	22	19	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—
上位階層			157	129	—	—	—	1	15	7	—	2	—	3
下位階層			852	805	—	—	—	7	6	25	—	2	—	7

(注) ①漁業以外に二種以上の他産業を営む場合はそのうち主なもの(最も収入の多いもの)により分類した。

5. 漁業従事者世帯

漁業従事者世帯総数は4,459でそれを主として依存している収入源別にみると(表6)のとおりである。これをみると約70%は被傭収入に依存する賃労働者世帯的性格のものと思われる。

(表6) 主なる収入源別漁業従事者世帯数

主なる収入源		総世帯数	自営漁業	共同経営 漁業	自営農業	その他の 産業	漁業被傭	その他の 被傭
世帯階層								
総	数	4,459	14	—	968	143	3,122	212
被傭 なし	総 数	275	—	—	270	5	—	—
	自営漁業	37	—	—	36	1	—	—
	共同漁業	238	—	—	234	4	—	—
被傭 あり	総 数	4,184	14	—	698	138	3,122	212
	自営漁業	151	14	—	19	4	107	7
	共同漁業	59	—	—	57	1	—	1
	漁賃自営あり 賃自営なし	1,848 2,126	— —	— —	622 —	133 —	1,017 1,998	76 128

6. 漁業世帯人口

個人経営世帯人口と漁業従事者世帯人口との合計は35,751人で個人経営世帯人口は9,909人、漁業従事者世帯人口は25,842人で漁業世帯一世帯当り世帯人員は6.0人個人経営世帯一戸当り世帯人員は6.6人漁業従事者世帯一世帯当り世帯人員は5.8人である。

また就労人口(14才以上)は個人経営世帯と漁業従事世帯を合わせて23,364人で漁業世帯人口の65.5%である。就労人口を主な就労状況別にみると(表7)のとおりである。

(表7) 就 労 状 況 別 就 労 人 口

総 数	自営漁業	共同漁業	自営農業	その他の 自営産業	漁業賃労働	他産業賃 労働	内職行商	その他
23,364人	2,193人	35人	7,106人	465人	5,059人	2,309人	1,311人	4,886人
100.0%	9.4%	0.1%	30.4%	2.0%	21.7%	9.9%	5.6%	20.9%

